

寄稿

今回のフィリピン旅行記を HANDS 事務局から依頼されて何を書けばいいか試行錯誤していましたが、放射線技師をしていた関係で病院の見学を希望し、通訳をお願いしたマリリン (Marlyn Bulan Baliton) さんに、二つの医療大学を案内していただいたので、その事について書くことにします。一つはコロナダルの市の NDMU, もう一つは、私が支援しているアン (Regel Ann Dakingkin) が学んでいるダバオ市の DMSF 医療大学です。両校ともに私立で医師、歯科医師、看護師などの養成を行っています。学校への入学はアメリカナイズされていて比較的簡単なようですが、卒業するまでが大変だと聞いています。両校とも施設は綺麗に整備され、かつ広く、勉学する環境はとても優れていると感じました。また驚いたことに、DMSF では、インドからの留学生をたくさん見かけました。マリリンさんが、受付で院内の見学を交渉して下さったおかげで、MARIPER M. MERCADER (Director-Alumni & External Relations Office) が、院内を隈なく案内してくださいました。また、アンを経由して、写真コピーで受け取っていたこれまでの成績や支払い済み授業料のコピーをいただきました。施設もさる事ながら、スタッフも充実し、学生たちの熱気あふれる雰囲気が伝わってきました。ただし、放射線科では、日本の病院では私の若い時に使用したような装置が、現地では今も使われていて少し驚きました。



NDMU はマリリンさん(右端)の元勤務先で、学長 (中央) にも会えた。



マリパールさん(右端)の案内で看護学部を訪ねた。(左から 2 人目は同行の高山さん)



アンが通っているダバオの私立医大 DMSF の正門付近

毎回、教育支援のページで現況をお伝えの特別奨学生アンの支援者、宮崎さんから、上記のように、この度コロナダルの市の Notre Dame of Marbel University/NDMU とダバオ医大 (Davao Medical School Foundation/DMSF) の訪問報告をいただきました。

アン対象の特別奨学金は、私たちの教育支援事業の一つとして、奨学金支給、成績等の報告他、現地事業管理は CMIP をお願いしています。レイクセブで初めてのチボリ民族の医者として期待されるアンは、ピラーン民族初の医師をめざしてその予備コースに通うジェニーにもよい目標になると、CMIP もアンの頑張りを応援してくれています。(事務局・山崎)



宮崎さんとアン
CMIP 本部ノビシエート, 6/13

* * * * *

「第 15 回通常社員総会」の報告

日時：平成 27 年 5 月 30 日(土) 13:30-15:00

会場：青葉区民活動支援センター・会議室 4

出席者：社員 33(うち委任状 25 社員総数 52)、賛助会員 2、スタッフ他 2

来賓：NPO 法人 WE21 ジャパンみどり(五十嵐代表と福島様)

- * 議長/古川理事、書記/香月理事により、各議案は、質疑応答を経て、原案通り、承認、あるいは、議決されました。
- * 議案審議後に報告の予定だった現地写真報告は、H26 年度事業報告の補助資料として、映像を見ていただきました。
- * すべての議案は原案通り可決されましたが、詳細ご希望の社員の方は、お手数でも議事録の写しを、事務局の方にご請求下さい。



総会参加者
(撮影は社員会員の金野氏)
前列左から：河原・安達・古川
山崎・八島・福島
後列左から：前田・香月・藤川・渡辺・
中島・関・五十嵐・高山